

宮古島市 neo 歴史文化ロード

旋子舞

あやんつ

砂川・友利

宮古島市教育委員会

綾道

あやんつ

おもむき みち
「趣のある道」のことを、
みやこじま
宮古島のことばで「あやんつ」といいます

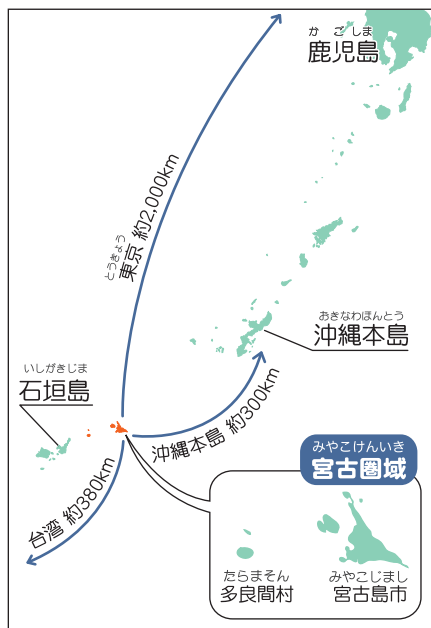
みや こ じ ま し い ち めん せき

宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204km²、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





綾道（砂川・友利コース）

さんさく マップ	04
友利元島遺跡 埋蔵文化財	06
けんりゅうさんじゅうろくねんおおなみ 乾隆三十六年大波	07
ねん ど はくつちようさほうこく 2012年度発掘調査報告	08
がいせい おの シャコ貝製の斧／カムイヤキってなあに？	09
ぐすべちよう ともし がー けん し てい ゆう けい みんぞく ふん か ざい 城辺町の友利のあま井 県指定有形民俗文化財	10
う がー 「降り井」はどうやってできたの？	11
きん すきやー がー し し てい し せき 金志川泉 市指定史跡	12
よう せい きゅう き 「雍正旧記」ってなあに？	13
きん す きやー とう ゆ みや や し き あと い せき まい ぞう ふん か ざい 金志川豊見親屋敷跡遺跡 埋蔵文化財	14
の ばる だけ へん 野原岳の変	15
ねん ど はくつちようさほうこく 2012年度発掘調査報告	16
ちゅうこくさんとう じ き 中国産陶磁器のいろいろ	17
んに まう たき はいしよ ンニマムトゥ（嶺間御嶽） 拝所	18
し し てい てん ねん き ねんぶつ どうぶつ ツマグロゼミ 市指定天然記念物（動物）	19
うい びやー やま い せき けん し てい し せき 上比屋山遺跡 県指定史跡	20
さまざまな説／「倭寇」ってなあに？	21
さいじょう けん し てい ゆう けい みんぞく ふん か ざい ウイピャームトゥの祭場 県指定有形民俗文化財	22
ゆらい 「ナーパイ」の由来	23
さきしま しょう ひ ばん むい うる か と お み く に し てい し せき 先島諸島火番盛 砂川遠見（トゥンカイフツイス） 国指定史跡	24
かく ち ひ ばん むい 各地の火番盛	25
し し てい む けい みんぞく ふん か ざい うるかクイチャー 市指定無形民俗文化財	26
「クイチャー」ってなあに？	27
とし し し てい む けい みんぞく ふん か ざい 友利クイチャー 市指定無形民俗文化財	28
にんとう せい クイチャーと人頭税	29
とし し し し てい む けい みんぞく ふん か ざい 友利獅子舞い 市指定無形民俗文化財	30
ぶん か ざい たい けい ず 文化財の体系図	32



うるかクイチャー p26

友利クイチャー p28

友利獅子舞 p30

獅子舞

ンニマムトゥ
(薩摩御殿) p18

友利村番所跡
(ザンミヤ)

友利実功氏の生家
なかりやま
あやぐま
なめたん

金志川豊見親
屋敷跡遺跡 p14

金志川泉 p12

ハヤブサス
(アカハ)

城辺町の友利の
あま井 p10

友利元島遺跡 p06

ツマグロゼミ p19

ウイバームトゥ
の祭場 p22

上比屋山遺跡 p20

先島諸島火薬庫
砂川遺見 p24

コース全長約5km
所要時間3~4時間

START

イムギヤ
マリンガーデン

なかりやま
あやぐま
まっり

とも り もと じま い せき
友利元島遺跡



とも り もと じま い せき せい き こうはん しゅうらく
友利元島遺跡は、13世紀から18世紀後半にかけての集落遺跡
みや こ じま みなみかいがんに おお つ なみ けんりゅうさん
です。宮古島の南海岸一帯の集落は、1771年の大津波（乾隆三
じゅうろくねん おお なみ かいめつ てき ひ がい う
十六年大波）によって壊滅的な被害を受けました。1987年、
おこな はくつちようさ はこ すな こ いし きん
1995年に行われた発掘調査では、津波が運んだ砂や小石が、近
せい せい かつ あと おお じょうたい はっ けん とう じ
世の生活の跡を覆った状態で発見されており、津波によって当時
の集落が大きな被害を受けたことが分かっています。その後、集
せん ちか げんざい い ち い どう
落は、海岸線近くから現在の位置に移動しました。遺跡の一帯で
ちゅうごくさん とう じ き ど き さんざい
は、現在も中国産の陶磁器や土器などが散在しています。

けんりゅうさんじゅうろくねんおおなみ 乾隆三十六年大波

1771年旧暦3月10日午前8時頃、マグニチュード7.6の大地震が発生しました。震源は「石垣島南沖」もしくは「石垣島と多良間島の中間沖」ではないかとされています。

その30分後には、宮古・八重山諸島へ大津波が来襲。津波は3度押しよせたといいます。

この大津波は「乾隆三十六年大波」、いわゆる「明和の大津波」といわれています。

みやくに しんざと うる か とも り ち いき ひがいにようきょう 宮国・新里・砂川・友利地域の被害状況

津波の高さ	3丈5尺 (10.6m) 程
全壊戸数	591戸
死者	2,042人
(百姓2,015人/役人5人/他村人22人)	
漂流生存者	(男12人/女4人) 16人

おといあいがき ようやく ひさいまえ こすう わ
御問合書より要約 ※被災前の戸数などは分かっていない



しもじまえやま せきひ
下地前山にある石碑
おおつなみ なが つ いたい
大津波で流れ着いた遺体
とむら た
を弔うために建てられた
せきひ けんりゅう
石碑。石碑には「乾隆三十六年三月十日大波 宮国 新里 砂川 友利」と刻まれている。

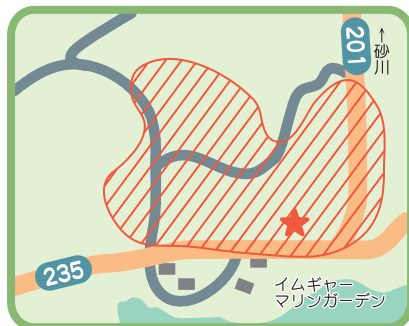
おといあいがき 御問合書



宮古の古文書『思明氏家譜』の付属文書である『御問合書 (1807)』には、当時の地震の様子や津波の来襲、各集落の被害状況が記されており、宮古諸島で、あわせて2,461名の死者が出たと記されています(琉球王国の正史『球陽』では、死者は2,548名となっている)。



げんざい しやくど ちが ばあい
※現在の尺度と違っている場合があります。



とも り もと じま い せき 友利元島遺跡

ねん ど はっくつ ちょう さ ほう こく 2012年度発掘調査報告

2012年12月から2013年1月にか
けて実施された友利元島遺跡の発掘調
査では、これまでの発掘調査にはない
新しい発見がふたつありました。

ひとつめは、990～860年前に埋葬
された人骨が発見されたことです。埋
葬された人骨は、2体検出されていま
す。1体目の第1号人骨は、両足を折
り曲げた状態で埋葬されていました。
そして、2体目の第2号人骨は、鹿児
島の徳之島で焼かれた完全な形の力
ムイヤキと一緒に添えられており、県
内でも数少ない発見です。



がい そざい おの かい ふ
シャコ貝を素材とした斧（貝斧）



よう す
発掘調査の様子

ふたつめは、む ど き き
無土器期と言われる、
土器が使われなかった時代の生活の跡
を残す層が確認されたことです。この
層からは、シャコ貝を素材とした斧が
15点出土しており、その当時の食料
である、イノシシや魚の骨、貝なども
出土しています。この層から出土した
炭化物の年代測定を行ったところ、今
から約1,400～1,250年前の値が得ら
れています。



はっけん じんこつ
発見された人骨

シャコ貝製の斧

シャコ貝を素材とした斧のことを貝斧かいぶといいます。貝斧は、日本国内では、宮古・八重山諸島の遺跡からのみ出土するもので、海外ではフィリピンや太平洋諸島に同じものがあります。

主にシャコ貝の蝶番の部分を利用しますが、肋の部分を使うタイプもみられます。生活の様子などから、主に舟を作るための道具だったと考えられています。



カムイヤキってなあに？

カムイヤキとは、11～13世紀にかけて、鹿児島県の徳之島で焼かれた焼き物です。徳之島では、多くの窯跡も発見されており、11世紀頃から、奄美から宮古・八重山諸島まで、交易品として広く流通しました。2012年度の友利元島遺跡の発掘調査では、宮古島市で初めて完全な形のカムイヤキが人骨と共に出土しています。



友利元島遺跡出土のカムイヤキ

城辺町の友利のあま井



あま井は、城辺字砂川と字
友利の境界にある洞窟井泉(降
り井)です。降り口から湧き口
までの深さは約20mで規模も
大きく、現在でも水量は豊か
です。1965(昭和40)年に城辺
で上水道が普及するまでは、
この井泉が飲み水を始め、生
活を営む上の貴重な水資源で
した。

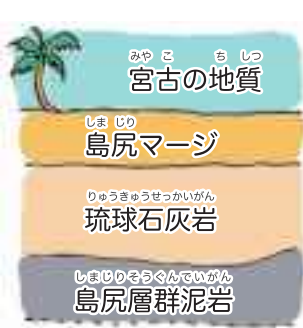
水汲みは女性や子どもの日課で、あま井に降りる石段や側面の
岩には、すり減ってしまった部分が見られ、水を得るために過酷
な水汲みを行った当時の苦労がしのばれます。

このあま井については、『雍正旧記(1727)』に掘削年数は不
明と記されており、いつ頃造られたのかはわかりませんが、友
利・砂川・新里の各元島(旧集落)の住民が、1771年の「明和の
大津波」以前から、現在の集落へ移動した後も、長く利用しまし
た。宮古における地域住民の水利用のあり方や、その歴史的変遷
を知る上でも価値の高い井泉です。

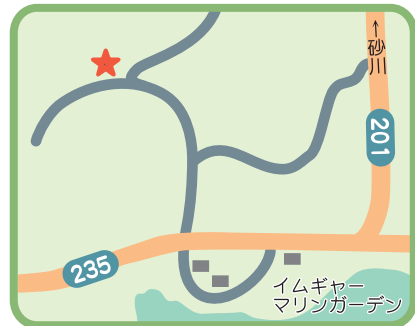
う え み ず
上から見た図



う がー
「降り井」はどうやってできたの？



すす 浸食が進み、
やがて地表が
くず 崩れ、陥没ド
リーネという
くぼ 窪地ができる



きん す きやー がー
金志川泉



きん す きやー がー 金志川泉は、金志川豊見親の屋敷跡から150mほど西側にある
どう せん かい こう ぶ とう ゆみや た みず つぼ やく だん かい だん
洞泉です。開口部から水の溜まっている水壺まで約30段の階段
もう ひろ えん けい すい しん
が設けられています。水壺は広くほぼ円形で、水深は1mほどで
いずみ しお かん まん かい すい はい こ こう ねん の
す。この泉は、潮の干満によって海水が入り込むので、後年は飲
り よう
み水としては利用されなかったようです。

よう せい きゅう き しる
『雍正旧記(1727)』には『掘年数不相知』と記されており、
ころ つく わ
いつ頃造られたかは分かりません。

みや こ や え や まり よう とう え ず ちよう うる か ま ぎり
『宮古・八重山両島絵図帳(1647)』には、おろか(砂川)間切に
きん す きやー むら な なか そ ね とう ゆみや や え や まり
きんす川村の名があり、また、『仲宗根豊見親八重山入のあや
ご ぐすく お とう と う た
ご』に『金志川の豊見親金盛とよ／城なぎ弟なきたつよ』と謡わ
れていることから、金志川泉は、金志川村及び金志川豊見親との
かん れん そう ぞう き ちよう
関連を想像させる貴重な洞泉です。

よこ み ず 横から見た図

どうくつ たん けん か
2004年の洞窟探検家
ちようき
の調査によると…



よう せい きゅう き 「雍正旧記」ってなあに？

ようせいきゅうき みやこ もっと ふる
『雍正旧記(1727)』は、宮古で最も古
いといわれている文献『宮古旧記類』のひ
とつです。旧記類は他に、
『御嶽由来記(1705)』
『宮古島記事(1752)』
『宮古島記事仕次(1748)』
『宮古島在番記(1780)』
などが知られています。

とく
特に『御嶽由来記』『雍正旧記』『宮古島
りゅうきゅうおうふ れきし しょ へんしゅう
じ
記事』は、琉球王府の歴史書を編集する事
ぎょう しりょう ほうこく おも
業の資料として報告されたもので、主な
ないよう かくう たきめい さいしん ゆ
内容は、宮古の各御嶽名・祭神とその由
らい むらばんしょ しょういち せいせん めいしょう くっさく
来、各村番所の所在地、井泉の名称・掘削
しま さんぶつ かよう しる
年、島の産物、歌謡などについて記されて
います。



雍正旧記

このページには「掘年数不相知(いつ
ほ ぶ めい きん すきやーがー
掘られたか不明)」として、「金志川泉
みぎ おな しる
も右に同じ」と記されている。



金志川豊見親屋敷跡遺跡



金志川豊見親屋敷跡遺跡は、15～16世紀の城辺(現在の城辺地域)の有力者であった金志川豊見親の屋敷があったと考えられている遺跡です。現在の金志川御嶽一帯が、遺跡の範囲となり、『雍正旧記(1727)』に記されている金志川城も同じ場所にあったと考えられています。

『雍正旧記』によれば、金志川城の規模は長さ17間(30.6m)、横16間(28.8m)で、門は卯辰(東南東)の方向にあったと記されています。現在はその跡を示すような石積みは残っていませんが、金志川御嶽一帯には、貝類や土器、白磁・青磁・青花といった陶磁器類などが散在しています。

※ 1 間は約1.8mとしています

の ばる だけ へん 野原岳の変

むかし、友利に金志川金盛と那喜太知という兄弟がいました。ふたりは、宮古の支配者である仲屋根豊見親が、石垣島や与那国島へ遠征するときに従軍して多くの手柄をたてるなど、知恵と勇気を兼ね備えた兄弟でした。しかし、兄の金盛は、与那国島の遠征の帰りに多良間島で亡くなってしまいました。そこで弟の那喜太知が城辺を治める首長となり、金志川豊見親といわれ、みんなに慕われました。

仲屋根豊見親の長男である仲屋金盛豊見親の家臣の中屋勢頭は、そんな金志川豊見親の威勢をねたみ、仲屋金盛豊見親に、「金志川豊見親は、あなたをないがしろにし、反乱を起こそうとたくらんでおります。」と言い、金志川豊見親へは、「仲屋金盛豊見親は、最近あなたのことを疑っています。」と、嘘をつきました。

だまされた仲屋金盛豊見親は、金志川豊見親を殺してしまおうと、宮古島の中央付近にある野原岳で宴を催し、そこに金志川豊見親を誘いました。一方、金志川豊見親は、自分が争いを起こすつもりがないことを伝

えるため、宴へとむかいました。

宴もたけなわになったころ、仲屋金盛豊見親が盃を投げ捨て、「者ども出でよ！」と叫ぶと、隠れていた兵が一斉に現れました。金志川豊見親は、「私に異心がないことは太陽が照る如しである。過って後悔するでないぞ」と言いましたが、聞き入れられず、兵は剣を抜いて討ちかかりました。金志川豊見親は異心がないことを証明するために、崖から身を投げてしまいました。

その後、この事件を調べるために琉球王府から糾問使が来ることになりました。それを知った仲屋金盛豊見親は、自分の過ちを後悔し、自分をだました中屋勢頭を斬り殺した後、自殺してしまいました。



きん す きやー とぅゆみや や しき あと い せき

金志川豊見親屋敷跡遺跡

ねん ど はっくつちようさ ほうこく

2012年度発掘調査報告

きん す きやー とぅゆみや や しき あと

金志川豊見親屋敷跡は、これまで
ぐすくべ ちようきよういくい いん かい
1995年(城辺町教育委員会)、2012
年(宮古島市教育委員会)の2回、発掘
ちようさ じっ し
調査が実施されています。

2012年の発掘調査は、金志川御嶽
ない おこな
内で調査を行いました。この発掘調
げんざい ちひょうめん やく
査では、現在の地表面から約20cmほ
ほ さ たてもの き ばん りゅうきゅう
ど掘り下げると、建物の基盤の琉球
せつ かい がん たつ
石灰岩に達しましたが、屋敷跡を
しめ かく にん
はっきりと示すようなものは確認す
ることができませんでした。しかし
しょうりよう
少量ではありますが、土器や15～16
せい き ちゅうごく さんとう じ き せい
世紀につくられた中国産陶磁器(青
じ せい か しゅつど
磁、青花)などが出土しています。

はっくつちようさ よう す

発掘調査の様子



いつ ほう

一方、1995年に城辺町教育委員会
おほ
が実施した発掘調査では、多くの中
はく じ かつ ゆう
国産陶磁器(白磁、青磁、青花、褐釉
とう じ しよくりよう かんが
陶器)が出土し、当時の食料と考えら
れる動物の骨や貝類も多くみられま
す。動物の骨で多いのは、ウシ、ブ
た(もしくはイノシシ)の骨で、ウマも
少量出土しています。このウシの骨
ねん だい そくてい
の年代測定を行ったところ、今から
あたい え
約500～450年前の年代の値が得られ
ています。



中国産陶磁器のいろいろ

遺跡からは、多くの青磁、白磁、青花、褐釉陶器といった、中国で焼かれた陶磁器が出土します。これらの陶磁器は、時代によって器の形や文様が異なり、遺跡の年代を示す重要な資料となります。

白磁「玉縁口縁碗」

12世紀頃



白磁「ピロースクタイプⅡ」

13世紀頃～14世紀前半



青磁「無鎬蓮弁文碗」

15世紀前半



12世紀

12世紀頃

13世紀

13世紀頃～14世紀前半

14世紀

15世紀

15世紀後半

16世紀

17世紀

青磁「雷文帯碗」

15世紀



青磁「細蓮弁文碗」

15世紀～16世紀



青花「外反口縁皿」

15世紀後半



世紀って？



ソニマムトゥ（嶺間御嶽）



嶺間御嶽に祀られて

いる神は、「あまれふ
ら泊主」という男女神
(男と女のふたりの神)

で、航海安全の神とし
て、城辺の4つの村が

崇拝していたと『御嶽由来記(1705)』に記されています。

由来記には、『昔、友利村の後ろにあるあまれ山の麓に戸数わ
ずかな村があった。ある夜、突然の津波ですべて流され、ただひ
とり生き残った大津かさという女は、嶺間山の上に小屋を建て、
ひとりで暮らした。ある時、東平安名崎の近くの宮度浜に、大和
の難破船が流れ着き、助かった男が大津かさと巡り会い、夫婦と
なった。ふたりは子孫に恵まれ、
あまれ村という村ができた。

しかし、彼らの住んでいた嶺間
山もあまれ村も、どのあたりで
あったかは定かではない』と記さ
れています。



ツマグロゼミ

Nipponosemia terminalis (MATSUMURA1913)



ツマグロゼミは、中国、台湾、八重山諸島、宮古島に分布し、宮古島を北限とします。宮古島では城辺地区砂川・友利集落の一部と、上野地区新里集落のイスノキという木に生息しています。羽の先端部分に暗い色の模様があり、頭を下にしてとまる習性があります。5月下旬～6月下旬に発生し、5時半頃～19時半頃までシーツ、シーツと鳴きます。方言で「ヌービスガーラ」「ヌスピガーラ」と呼ばれています。生育木のイスノキが減少傾向にあることから、1996年に上野村役場により「ツマグロゼミ増殖施設」が新里に建てられ、植林や増殖事業を行なっています。



うい びやー やま い せき
上比屋山遺跡

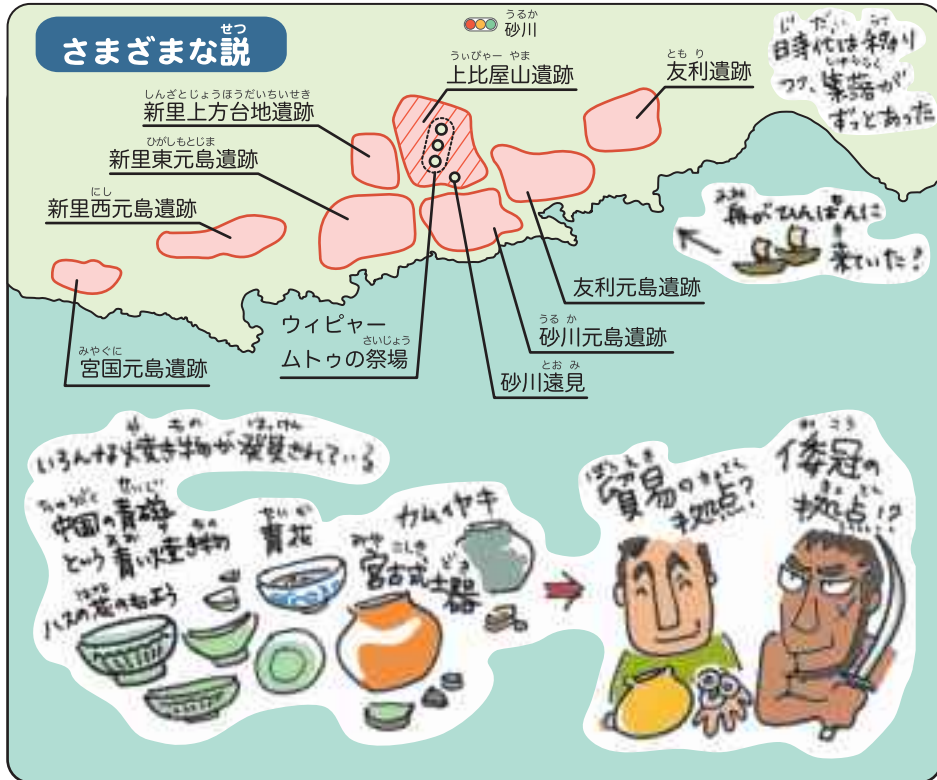


うる か しゅうらく みなみ せい き い せき たか りゅうきゅうせつ
砂川集落の南にある14～15世紀の遺跡で、高さ40mの琉球石
かいがんきゅうりょう みなみがわ もとじま ひろ あと
灰岩丘陵にあります。南側の砂川元島遺跡とあわせて広い集落跡
けい せい
を形成しています。

みや こ しき ど き せい じ おきなわ せいとう き さん
この遺跡からは、宮古式土器や、青磁、沖縄製陶器、タイ産の
つぼ み なか おお
壺などがみつかっています。中でも、とくに青磁が多く、そ
かいしゃく わ こう ごん きょ ち せつ ぼう えき さか みなとまちせつ
の解釈については「倭寇の根拠地説」「貿易で栄えた港町説」
ぼう えき ちゅうけい き ち せつ
「貿易の中継基地説」などがあります。

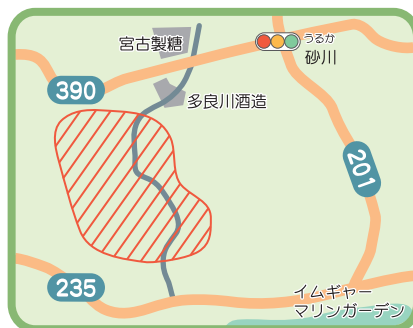
また、遺跡内には、県指定有形民俗文化財「ウイピャームトゥ
さいじょう くに し せき さきしましやとう ひ ばん むい とお み ばんしよ
の祭場」や、国指定史跡「先島諸島火番盛(遠見番所)」のひとつ
うる か とお み
である「砂川遠見(トゥンカイフツイス)」があります。

さまざまな説



「倭寇」ってなあに？

「倭寇」とは、13～16世紀にかけて、朝鮮半島や中国大陸沿岸などで活動し、略奪行為や密貿易などを行った海賊のことです。この倭寇の歴史を大きく見ると、前期と後期に分けるとができ、上比屋山遺跡と同時期頃の15世紀までの前期倭寇は、主に瀬戸内海・北九州を本拠地とした日本人が多かったと言われています。



さい じょう ウイピャームトゥの祭場



うる か しゅうらくなん ぼう うい びゃー やま い
砂川集落南方の上比屋山遺
せき こも ぎ れい つか
跡にある、籠りの儀礼に使わ
れる「マイウイピャー」「ク
スウイピャー」「ウイウス」
とう か おく さいじょうない いし
の3棟の家屋で、祭場内の石

がき ぼ ぞん そく めん りゅうぎゅうせつ
垣などととともに、よく保存されています。3棟とも側面が琉球石
かい がん いし づ みなみ む
灰岩の石積みで、それぞれほぼ南向きです。

まつ かみ ゆ らい よう せい きゅうき
祀られている神についての由来は『雍正旧記(1727)』や『宮
き じ し つぎ しる
古島記事仕次(1748)』に記されています。

おも ぎょうじ こも しつ まつ
主な行事は、2月籠り、ナーパイ、8月籠り(節祭り)などがあ
ります。宮古の村落の、そん らく かみ がみ そ せん り かい
うえで極めて貴重文化財です。

「ナーパイ」の由来

むかしむかし、「さあね」という男の子がいました。7歳の頃、大津波が村を襲い、人も家も残らず押し流されてしまいました。ひとり取り残されたさあねは、途方に暮れ、泣きながら村を歩きまわりました。それを見てかわいそうに思った喜佐真按司という人が、さあねを引き取って育ててくれました。さあねが15、6歳になった頃、浜を歩いていると、小舟に乗った美しい女が現れ、「私は、むまの按司とい

います。あなたの妻になるために竜宮の神様から使わされて来ました」と言いました。さあねは驚き、「あなたと私とでは身分がちがうのでつりあいませ

ん」と浜に手をついて断りました。しかし「竜宮の神様が言うのだから遠慮はいりません。さあ、あなたの両親が住んでいた所へ案内してください」と言われ、さあねは仕方なく上平屋山へと連れて行きました。荒れ果てた地に家を建て、男7人女7人の子どもが生まれました。子どもたちが大きくなると、妻は「あなたを助けるために一緒に暮らしてきましたが、子どもたちも大きくなったので竜宮へ帰ります。夫婦になってくれたお礼に、あなたを



悲しませた津波が二度とこないよう、津波除けの方法を教えます。3月初めの酉の日に「たいく(ダンチュクという竹に似た植物)」を磯づたいに差し、海と陸との境にしてください。そうすれば、いつの世までも津波が襲うことはないでしょう」と言って、海へ入り、見えなくなりました。

それから、村では旧暦の3月初めの酉の日に、女性は「たいく」の棒を磯に差し、男性は船漕ぎのまねをするようになり、津波除けの神事「ナーパイ」が始まったということです。

『雍正旧記』より



さきしましやう ひ ばんむい うる か とお み
先島諸島火番盛 「砂川遠見 (トゥンカイフツイス)」

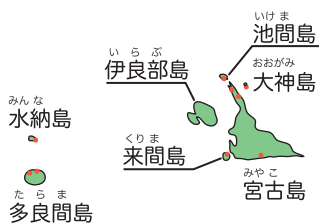


さきしましやう ひ ばんむい おきなわ けん し ちやう そん しよ
先島諸島火番盛は、沖縄県先島諸島2市2町1村の、19か所
てんざい とお み ばんしよ ぐん うる か ういびやー
に点在する遠見番所群で、砂川遠見はそのひとつです。上比屋
やま なん たん い ち ほう けいじやう りやうきやうせつかいがん きり いし づ とうざい やく
山の南端に位置し、方形状の琉球石灰岩の切石積みで、東西約
なんぼく とうへき たか き ぼ い こう
7m、南北約4.5m、東壁の高さ1mほどの規模の遺構です。遠
たいへい じやう いち ぼう がん か うる か もと じま い せき とも り
見台からは太平洋が一望でき、眼下には砂川元島遺跡と友利元
島遺跡を見ることができます。

え ど ばく ふ さ こく たいせい か さつ ま はん し はい
火番盛は、1644年、江戸幕府の鎖国体制下で、薩摩藩が支配
おう ふ せつ ち おち い こく せん とうらい
する琉球王府によって設置されました。主に、異国船の到来を
かん し あ かく ち つた ばんしよ くらもと つう
監視し、のろしを上げて各地の火番盛を伝えて番所や蔵元に通
ほう し き のう にな
報し、琉球王府へ知らせる機能を担っていました。

れつとう さいせい たいん たい
先島諸島は琉球列島の最西端に位置しており、火番盛は、対
がい かん けい さ こく たい せい かん せい しめ じやうやう
外関係と鎖国体制の完成を示す遺跡として重要なものです。

かくち ひばんむい
各地の火番盛



うるかクイチャー



うるかクイチャーは、砂川部落独特のものです。昔、若い男女
が昼間の労働から解放されて、夜の一時を楽しく歌い踊る様子
と、踊りの輪の中から、好きな彼女の手を取り、袖を引いて連れ
出し、時の経つのも忘れて語り合う様子を歌ったものです。

踊りは、通常は男が歌って踊り、次に女が囃して踊りますが、
全員が同時に歌い囃して踊る場合や、歌と踊り・囃しと踊りとい
うように二組に分かれて交互に行う場合もあります。歌と手拍子
が揃い、威勢のいいきうきした雰囲気をかもし出しています。

うるかクイチャー

※歌や踊りの長さは状況によって変わります

(マキヤブドゥス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキヤブドゥス° (巻き踊り)

円になり、内側を向く。

歌にあわせて手拍子と足踏みをし、
「サーッサユイサガユイサ」で
反時計回りにモーヤー (カチャー
シーのように手を左右に振りなが
ら踊ること) を踊る



×4回

クイチャー

歌と三線にあわせて踊る



両手と右足を
後ろへ引く



両手を前に、
足を戻す



両手を1回
前後に振る

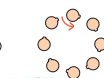


前に戻した手を
あげ手拍子1回

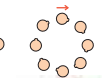
×4回



両手と
右足を
後ろへ
引く



両手を前に、
足を戻しながら、
左足を軸にして
左を向く



左を向いた
状態で両手
を1回前後
に振る



前に戻した
手をそのま
まあげて、
手拍子1回

C げんきふく跳びはねるかんじで

← 手はモーヤー



右足で一歩
後ろに下がり
ながら右足
を上げ、



両手はモーヤーを
しながら左、右、
左と、3歩進む



ヒヤツのかけ声と
同時に右足をあげ
ながら手拍子1回

×2回

※最後は歩きながら円の内側を向く



「クイチャー」ってなあに？

みや ぜん いき ふる おど っ
宮古全域に古くから踊り継がれてきた
踊りで、屋外で、みんなで円になって踊
ります。クイチャーの意味は「声合わ
せ」や「神の魂を乞い願う」と言われて
おり、願いが成就した時の喜びを老若男
女が心をひとつにして表現していきます。
クイチャーは、御嶽で豊作を祈り、
雨乞いをするのが習わしでしたが、いつ
しか、村の若い男女が寄り合い、歌い踊
るようになりました。

A B C を1曲終わるまで繰り返す

曲が代わり、

A ×2回

B C

を男女交互に踊る

曲が終わったら

を踊り、カンカンという鉦鼓
(しょうこ)の音でマキヤ
ブドゥス°に戻り、終了

A ×4回



とも り 友利クイチャー



むかし むら ばん しょ はた お じょ せい さん
昔、ブンミャー(村番所)で機織りをさせられた女性たちは、珊瑚
ご しょう しら なみ じょうふ も よう み
礁にあたってできる白波が上布の模様のように見えることか
ら、白波は上布に、浜の砂は粟になりますようにという願いをこ
めて、クイチャーアーグ(歌)に仕上げたといいます。

ひる ま たいへん ろう どう かい ほう わか もの よる とお あつ
昼間の大変な労働から解放された若者たちは、夜、通りに集ま
り、面白おかしく男女の様子を歌い踊ったりしたそうです。

とも り おとこ おんな く べつ
友利のクイチャーは、男踊りと女踊りという区別はなく、男女
いっ しょ だい ち ふ な い せい よ とくちょう
が一緒に大地を踏み鳴らして踊る、威勢の良さが特徴です。

ともりクイチャー

※歌や踊りの長さは状況によって変わります

(マキャブドゥス°を踊ってから、クイチャーを踊る)

マキャブドゥス° (巻き踊り)

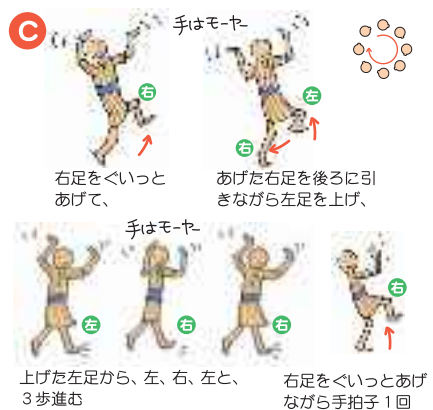
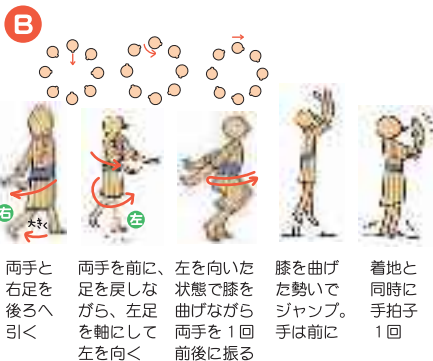
「サッサー」のかけ声で入場、円になり、内側を向く。歌にあわせて手拍子と足踏みをし、反時計回りにモーヤー (カチャーシーのように手を左右に振りながら踊ること) を踊る



× 2 回

クイチャー

歌にあわせて踊る



× 4 回 ※ 4 回目は手拍子で円の内側を向く

「クイチャー」と人頭税

人頭税とは、1600年頃から260年以上に渡って続いた苛酷な税です。15～50歳に課せられ、男は粟・胡麻・綿花などの農作物、女は細い糸で織られた上布という織物を納めなければなりません。この税は、全員に同じ税額を課したため、貧しい者や土地の少ない者にとっては大変な税でした。税を払うためだけに働くような生活の中で、クイチャーは数少ない若者たちの楽しみでした。



とも り し し ま
友利獅子舞い

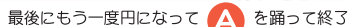
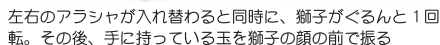
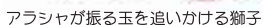
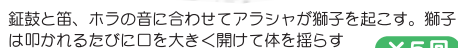
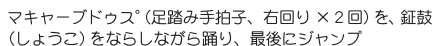
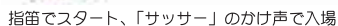


し し き げん むかし
獅子の起源についてはっきりしていませんが、昔のことをよく
し とし よ はなし やく れき し
知るお年寄りの話によれば、約250年の歴史があるといえます。

えきびょう か じ かん ばつ お あくりょう し わざ
昔は疫病、火事、早魃などが起こると、すべて悪霊の仕業であ
とら むら びと そう で さんじゃく ほど ぼう も
ると捉え、村人たちは総出で三尺（約91cm）程の棒を持ち、獅
せん とう みち ばた いし がき くさ き たた ぶ らく ない みち すみずみ
子を先頭に、道端の石垣や草木を叩きながら、部落内の道を隅々
まわ つた
まで廻ったと伝えられています。

さい がい はっ せい なつ ま よ やく
1830年頃から災害の発生しやすい夏の8月頃に、魔除け、厄
ばら む びょうそくさい ご こく ほうじょう まつ
払い、無病息災、五穀豊穡の祭りとして、獅子舞いを一年越しに
おこな げん さい
行うようになり、現在に伝えられています。

※踊りの長さは状況によって変わります



ぶん かい たい だい す
文化財の体系図

しやうらい
文化財の種類

か ち たか
特に価値の高いもの

おとく じやうよう
特に重要なもの

じやうよう
重要なもの

文化財

ひつよう
特に必要のあるもの

ほぞん かつよう
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

ゆうけい
有形文化財

建造物
美術工芸品 工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

してい
指定

重要文化財

指定

こく ほう
国宝

世界から見ても価値が高い、国の宝

とうろく
登録

登録有形文化財

むけい
無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

指定

重要無形文化財

とうろく
登録

登録有形文化財

せんたく
選択

きらく さくせい かんが
記録や作成などを考える必要のある無形文化財

みんぞく
民俗文化財

有形民俗文化財 無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

指定

重要有形民俗文化財

重要無形民俗文化財

登録

登録有形民俗文化財

選択

記作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

き ねん ぶつ
記念物

遺跡 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地 庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物、植物、地質鉱物

指定

し せき
史跡

指定

とく べつ
特別史跡

めい しょう
名勝

指定

とく べつ
特別名勝

てん ねん き ねん ぶつ
天然記念物

指定

とく べつ
特別天然記念物

登録

登録記念物

けい かん
文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地 棚田、里山、用水路など

都道府県または市町村の申し出に基づいて選定

重要文化的景観

でん とう ぎ げん ぞう ぶつ ぐん
伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

市町村が決定

伝統的建造物群保存地区

選定

重要伝統的建造物群保存地区

ぎ じ ゅ つ
文化財の保存技術

選定

選定保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

まい ぞう
埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

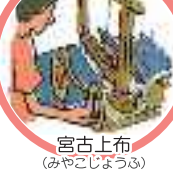
かたち
形のあるもの

形のないもの

無形文化財

指定

重要無形文化財



宮古上布
(みやこじょうふ)

重要有形民俗文化財



ウイピヤームトゥ
の祭場 (さいじょう)

民俗文化財

指定

登録

重要無形民俗文化財



宮古島のパントウ

登録有形民俗文化財



竹富島の生活用具 842 点 /
沖縄県・竹富島 (たけとみじま
のせいかつようぐ / たけとみじま)

国 宝



治金丸 / 沖縄県
(じがねまる / おきなわけん)

生活に関係
したもの

登録有形文化財



旧西中共同製糖場煙突
(きゅうにしななかきようどう
せいとうじやうえんとつ)

文化財

記念物

指定

登録

登録記念物



旧仲宗根氏庭園
(きゅうなかそねしていえん)

文化的
景観

指定

重要文化的景観



別府の湯けむり・温泉地
/ 大分県 (べつふの ゆけむり
おんせんち / おおいたけん)

史跡

れきしじょう めいしよ
歴史上の名所



遠見番所
(とみばんじよ)

特別史跡



吉野ケ里遺跡 / 佐賀県
(よしのがりいせき / さがけん)

名勝



東平安名崎
(ひがしへんなさき)

特別名勝



識名園 / 沖縄県
(しきなえん)

けしき
景色の
よいところ

天然記念物



オカヤドカリ

特別天然記念物



イリオモテヤマネコ

きちよう しぜん
貴重な自然を
記念するもの

伝統的
建造物群

りきしてき
歴史的なまち
なみや景色

伝統的建造物
群保存地区

指定

重要伝統的建造物群保存地区



竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島
(たけとみじまの りうそんじゅうらく)

選定保存技術



芋麻糸手績み
(ちまいとてうみ)

文化財の
保存に
大事な技術

埋蔵文化財



住屋遺跡
(すみやいせき)

う
埋まっ
ているもの

わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(砂川・友利コース)**

発行

初版 平成31年 3月 改版 令和 3年 3月

編集・発行

宮古島市教育委員会

〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地

TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光

平成24年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業

